第３学年　　道徳科学習指導案

１　主題名

公平な態度で　【C－１３公正，公平，社会正義】

２　教材名

「なおとからのしつもん」どうとく　きみがいちばんひかるとき（光村図書）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

中学年の発達段階として，人に対する好き嫌いがはっきりしたり，仲間意識が強くなってきたりする。そのため好きな子には優しくするが嫌いな子には冷たくするなど人に対して態度を変え，トラブルが起きてしまうことがある。また，そのことがいじめや差別につながってしまう。児童は，所属集団の中でよりよく生活しそれぞれのよさや能力を伸ばす必要がある。自他の立場や思いを尊重し，正義を愛する心を育み，人によって態度を変えることなく誰に対しても公平に接しようとする態度と意欲を育てたい。

（２）児童の実態

少人数で，固定された人間関係で過ごしている。人によって態度を変えることなく誰に対しても公平に接することは大切だということは知っているのだが，これまでの生活の中で特定の児童に対して遊びに入れないということや鬼ごっこの最中に特定の子だけを集中的にねらうなどのトラブルが起きている。また，リーダー的な存在の児童は，周囲の児童が遠慮し，何も言わないため，自分の行為がよくないことだということに気づいていないことがある。周囲の児童たちは，困っていてもなかなか本音が出せずにいる。

（３）教材について

本教材は，児童の日常で起こりがちな場面が描かれている。また，読み物教材ではなく，主人公の「ぼく」が「なおと」からの質問にどうやって答えていいか分からず，読者に一緒に考えてほしいと訴えてくる。児童は，「ぼく」の力になるために意欲的に公平な態度について考えることができると考える。

描かれている場面は，以下の二つの場面である。

①席替えの場面　【仲良しの友達とそうでない友達が隣になった時】

仲良しの「じゅんや」には「やった」と喜ぶが，あまり話したことのない「ひろし」には「ええやだな」と思わず声を出してしまう。ひろしは，悲しそうな顔をしている。

②休み時間の場面【優しい友達と以前に意地悪をされた友達を遊びの仲間に入れる時】

いつも優しくしてくれる「ほなみ」には「いいよ」と快諾するが，以前遊びに入れてくれなかった「ゆかこ」には「だめだよ」と断る。

この二つの場面を見ていた「ぼく」は，「なおと」に「人によってたいどをかえるなんて，だめだよ。」と言うが，反対に「なおと」から「なんで人によってたいどをかえたらだめなの？」と聞き返されてしまう。その質問にどうやって答えたらよいか分からず困ってしまうという内容である。

どちらの場面も実際の生活で起こりうることであるため，自分事として捉えやすいと考える。

①の場面では，態度を変えられた側である「ひろし」の心情が描かれていないため，この状況を「どう感じるか」，自分と重ねながら考えさせることができる。

②の場面では，自分が不利益を被った相手のため「なおと」の言動に理解を示す児童もいると思われる。「嫌なことをされた相手には仕返しをしてもいいのでは」と考える児童の本音が引き出せるのではないかと

考える。

また，主人公の「ぼく」からの相談ということから，児童は，態度を変えられた「ひろし」と「ゆかこ」の気持ちだけではなく「なおと」の様子を見ている周囲の存在に気づくことができる。そのため，人によって態度を変えることは，変えられた相手だけでなく周囲の人間にも影響を与えていることに気づくことができる教材だと考える。

4　指導の構想

（1）教材提示の工夫

教科書は使用せず，イラストを提示しながら話を進めていく。

「席替えの場面」は，板書に残さず提示だけとする。「ひろし」の気持ちに触れ，人によって態度を変えることはおかしいということ，同じ態度で接しなければならないことを確認したうえで，「休み時間の場面」を提示する。以前に入れてくれなかった「ゆかこ」を入れない「なおと」に共感する本音を引き出す。そして，「ぼく」が「なおと」に聞かれた「どうして人によって態度を変えたらだめか。」ということに対する答えを問い，その後，「人によって態度を変えないとどんないいことがあるか。」を課題として考えていく。

（2）役割演技

課題を考える場面では，実感的な理解をうながすため役割演技をする。「休み時間の場面」で行い，始めに教材文と同じ状況，次に望ましい言葉がけをさせる。演技を行わせる前に「なおと」の以前に不利益をうけているという立場を十分に理解させておく。教材文と同じ場面では，「なおと」は教師が行う。「ほなみ」「ゆかこ」については，代表者に演技してもらう。そして，望ましい言葉かけをする場面では，「なおと」「ゆかこ」「ほなみ」を代表者に演技してもらう。それぞれの気持ちや「周りの見ている人」の気持ちを聞き，発表されたことを立場ごとに整理して板書する。「周りの人」の視点をしっかりと確認する。

役割演技から感じたことを通して，人によって態度を変えることなく誰に対しても公平に接することの利点について考えさせたい。そして，そのことは，みんなが気持ちがよいことだと感じさせ，まとめにつなげる。

（3）振り返りの時間を十分にとる

振り返りの時間を十分にとり，授業を通して分かったことやこれから自分はどうしていきたいか考えさせたい。

5　本時の計画（1時間／全1時間）

（1）ねらい

人によって態度を変える「なおと」の言動について，態度を変えて「ゆかこ」に接する場面と公平に接する場面の役割演技を行い，周囲に及ぼす影響を考えることを通して，人によって態度を変えることなく誰に対しても公平に接することのよさに気づくことができる。

（2）展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の思考	■評価　　○留意点
導入 １学習課題をつ	T1　ぼくが困っています。どんなことに困っているのでしょうか。ちょっと話を聞いてみましょう。	○「ぼく」の困っている顔の絵を提示し，場面の

かむ。 （１０分）	〈教材文「席替えの場面」までを読む〉 T２　問題だと思うところはありますか。 C１　なおとさんはひどい。 C２　ひろしさんがかわいそう。 T３　どうしてそう思いましたか。 C３　だってひろしさんを傷つけたと思うから C４　私がひろしさんだったら嫌だと思うから C５　ひいきだからやっちゃダメだと思う。 T４　こんなこともあったそうです。 〈教材文「休み時間の場面」を読む〉 T５　問題だと思うところはありますか。 C６　やっぱりなおとさんはひどい。また，意地悪している。 C７　ゆかこさんがかわいそう。 T６　どうしてそう思いましたか。 C８　「入れない」と言われたら悲しいから。 T７　でもなおとさん前にゆかこさんに入れてもらえなかったんだよね。それでもゆかこさんかわいそうですか。 C９　なおとさんの気持ち分かるかも。でも入れてあげないとだめなんだよな。嫌な気持ちになるし。 〈教材文を最後まで読む〉 T８　ぼくは，なおとさんの「どうして人によって態度を変えるたらだめなの？」にどう答えるか困ってしまったんだね。みんなだったらどう答えますか。 C10　難しい。分からないな。 C11　だって嫌な気持ちになる人がいるから。 C12　態度を変えちゃいけないから。 T９　人によって態度を変えてはいけないんですね。では，どうして人によって態度を変えないことがいいのでしょうか。 学習課題 人によって態度を変えないとどんないいことがあるか。	絵を見せながら教材文の状況を説明する。この場面は，板書には，残さない。 ○「かわいそう」「ひどい」と思った理由を尋ね，「やってはいけないこと」ということを十分に確認する。 ○ゆかこがなおとを以前に遊びに入れてくれなかったことを確認する。「休み時間」の場面は，絵を板書しながら話していく。 ○ノートに学習課題を書く。
展開 課題を考える。 （２５分）	T10　ノートに自分の考えを書いてみましょう。 C14　嫌な気持ちにならない。 C15　分からない。 T11　それは，本当なのかな。まだ，他にないのかな。実際にやってみて考えていきましょう。 【入れてあげない場合】 ほ仲間に入れて　　ないいよ。一緒に遊ぼう。 ゆ仲間に入れて　　なやだよ。前入れてくれなかったじゃん。	○数人に発表させる。 ※ ななおと　ほほなみ ゆゆかこ

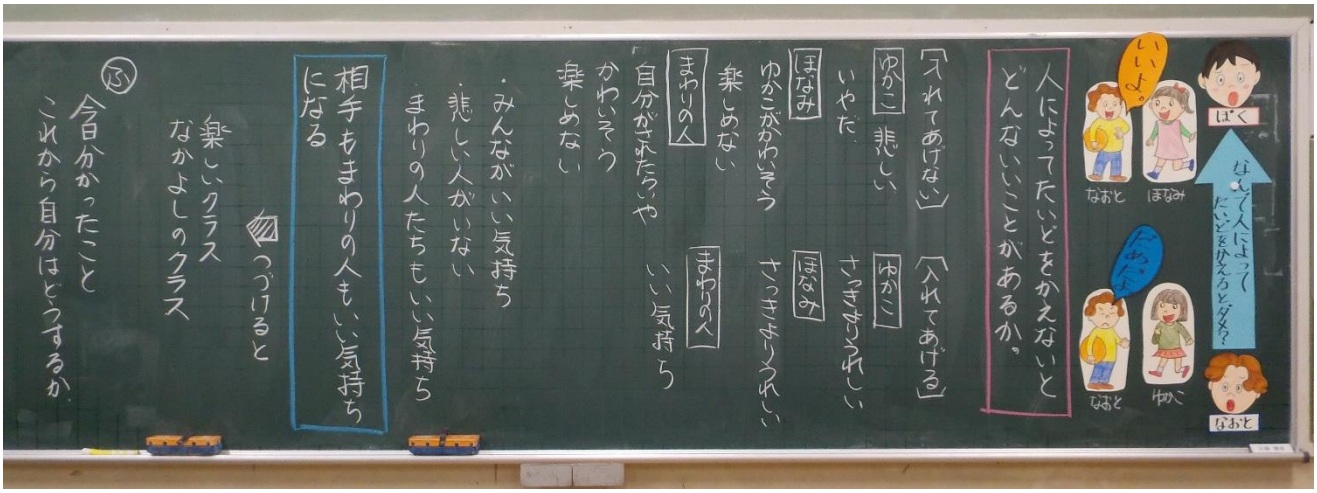
	T12　ゆかこさんの気持ちは，どうだった。 C16　嫌な気持ちになった。悲しくなった。 T13　ほなみさんの気持ちは，どうだった。 C17　あんまり楽しくない。ゆかこさんがかわいそうと思った。 T14　周りで見ている人は，どうですか。 C18　なんだか嫌だった。ゆかこさんがちょっとかわいそう。 C19　自分がされたら嫌だなと思った。 C20　遊んでいても楽しめない感じがした。 【入れてあげる場合】 ㋭仲間に入れて　㋭いいよ。一緒に遊ぼう。 ㋬仲間に入れて　㋭前に入れてくれなかったけど、いいよ。 T15　ゆかこさんの気持ちはどうですか。 C21　さっきよりうれしかった。 T16　ほなみさんは，どうでしたか。 C22　さっきより，うれしくなった。 T17　周りで見ている人は，どうでしたか。 C23　嫌な気持ちがしなかった。さっきよりいい気持ち。 T18　みんなが実際にやってみて人によって態度を変えないとどんないいことがありましたか。 C24　みんながいい気持ちになる。 C25　悲しい思いをする人がいなくなる。 C26　周りの人もいい気持ちになる。	○休み時間の場面を役割演技させる。演者の表情・言動を感じたことを共有させる。 ○どちらの場合も「ほなみ」「ゆかこ」は，演者を同じ子にさせる。 ○役割演技している児童が言えないときは，周囲の子にどう言えばよいか投げかける。 ○感じたことを立場に分けて板書する。
終末 まとめる （２分） 振り返り （８分）	T19　みんなの意見をまとめるとどうなりますか。 まとめ 相手も周りの人もみんながいい気持ちになる。 T20　人によって態度を変えないといいことが分かりましたね。誰にでも同じ態度で過ごして，みんながいい気持ちになることが続くと，どんなクラスになると思いますか。 C27　楽しいクラス。 C28　なかよしのクラス。 T21　そうですね。それでは，今日分かったことやこれから自分はどうして行きたいか振り返りを書きましょう。 C29　今までなおとさんみたいに人によって態度を変えていたけど，みんなでいい気持ちになって，仲良くなりたいからこれからはなるべくしないようにしたい。 C30　今日は，人によって態度を変えないとみんながいい気持ちになることが分かった。みんながいい気持ちになれるようにしたいし，違う態度をする人がいたら注意したい。	■人によって態度を変えることで相手や周りの人を嫌な気持ちさせることや態度を変えないとみんなが気持ちいいことに気付き，これから自分はどうしていきたいかについて記述している。

（３）評価

振り返り記述で評価する。

人によって態度を変えることは，相手や周りの人を嫌な気持ちにさせることに気付くとともに，その利点が分かり，これからは人によって態度を変えることなく公平に接していこうという意欲を持っている。また，これから相手のことや周りのことを考えて行動したいという意欲を持っている。

例）　・なおとさんのように人によって態度を変えると，相手の人や周りのみんなを嫌な気持ちにさせてしまうことが分かった。

・これからは，人によって態度を変えない。わけは，みんながいい気持ちになって，仲良くなれるから。

（４）板書計画